

令和5年度大学・附属学校園連携事業推進経費 成果報告書

<p><b>所属名</b></p>	<p>理数情報教育系・附属高等学校(池田校舎・天王寺校舎・平野校舎)</p>
<p><b>研究課題名</b></p>	<p>附属学校園横断型のタンポポPCR実習プログラム開発</p>
<p><b>研究課題概要</b></p>	<p>本プロジェクトの目的は、本学附属学校園の高度専門性を持った生物学教員人材（博士号取得者を含む）を最大限に活用し、大学教員が主導して附属学校園横断型の教育プログラムを開発・研究・実践することであり、昨年度研究交流会で発表した内容を踏まえ、今年度は次の点について取り組んだ。</p> <p>(1) 新学習指導要領の主体的・対話的で深い学びに関連して、「探究」「見方・考え方」を重要視した学びを生徒に提供するために、3校舎それぞれの担当教員の専門性を生かして開発した「タンポポPCR実習プログラム」を、探究活動の課題にフォーカスできるように改善して実施した（実施時期は平野が12月、池田が2月、天王寺が3月であった）。具体的には、附属3校舎それぞれで、生徒も一緒になってタンポポが生えている状況や花や葉などの形を確認しつつ、そこから実際にDNAを単離精製してPCR実習を行い、結果を考察する、という一連の流れを生徒に体験してもらった。この効果は側で見て非常に顕著であったが、今後、Askaの意見共有アンケート結果を分析することで3校舎での取り組みについて深い考察や比較ができると考えられる。</p> <p>(2) 附属3校舎で共通して先端科学的な生物実験授業を継続することで、ホンモノの先端研究に触れて生徒のワクワク感を生み出す事業を継続することも重要である。このような取り組みを継続することで、生徒のキャリアへの夢を育みたいと思っている。今回のAskaによる事前事後アンケートでは、その辺に関連する設問を取り入れており、分析結果に期待がもたれる。また、今回の実施に際して生徒の意見を聞くことで、教育プログラムをさらに改善していきたい。</p>
<p><b>研究課題の構成員 (リーダーに※)</b></p>	<p>鈴木 剛(理数情報教育系)※          岡本 圭史(附属高校平野校舎)          井村 有里(附属高校天王寺校舎)          岡本 元達(附属高校池田校舎)          森中 敏行(以下附属高校天王寺校舎)          木内 葉子          中西 亜実(附属高校平野校舎)          日高 翼(以下理数情報教育系)          仲矢 史雄</p>